

アートプロデュース論

教養
1年生 2年生
2単位 後期
金曜 5限
実務経験あり
講義

寺田 航

〔履修条件〕

特になし。

〔授業の概要〕

チケットが売れない俳優・演出家・脚本家をキャスティングすることは難しい。

素晴らしい作品もチケットを買ってくださるお客様がいなければ赤字になり、興行を続けることができなくなる。

なので、どんなに演技が素晴らしく、才幹溢れる脚本・演出家としても、キャスティング権を持つプロデューサーやスポンサーに評価され「選ばれなければ」配役に繋がらない。

そして「選ばれなければ」、プロの表現者として「稼ぐことができない」ので、副業収入で生計を立て、納税していくしかないが、もはや副業が本業であり、表現者としてのプロフェッショナルではない。

「選ばれなければ稼げない」

表現の世界だけでなく、どの道に進んでも、直面し乗り越えなければいけない人生のハードルである。

この講座では「選ぶ権限を有する者」の目線に立って、「選ばれる力」と「稼ぐ力」、二つの力を支える基礎となる「メンタルコントロール力」の、3つの力の獲得を目指す。

そのための具体的な学習内容として以下の3本柱で構成する。

- ・メンタルコントロール力：マインドセット教育、個別カウンセリング
- ・選ばれる力：セルフプロデュース教育（ブランドマーケティング）
- ・稼ぐ力：公演予算書作成と経営基礎教育

〔授業の到達目標〕

- ・マインドセット教育を通じて、思考を変え、行動を変える。補講時に個別カウンセリングを行い、学生の個性に寄り添った思考・行動変容を促し、結果を変えることができる。
- ・セルフプロデュース教育を通じて、他者から選ばれる為の思考・戦略・戦術についての知識を得ることができる。
- ・公演予算書作成と団体経営基礎教育を通じて、プロフェッショナルの予算と、アマチュアの予算の違い、稼ぐことの厳しさ、継続することの難しさ、を理解し、夢物語の劇団等団体運営から脱却する知識を得ることができる。

〔授業計画〕

第1回 講義ガイダンス

- ※各講義、脳の準備運動的な感覚でマインドセット教育を行ってから本編に入る。
- ※授業内容については、進行状況等により多少の前後が出ることを承知しておくこと。

第2回 マインドセット、セルフプロデュース

第3回 マインドセット、セルフプロデュース

第4回 マインドセット、セルフプロデュース

第5回 マインドセット、セルフプロデュース

第6回 マインドセット、セルフプロデュース

第7回 マインドセット、セルフプロデュース

第8回 マインドセット、セルフプロデュース

第9回 公演予算書作成と団体経営基礎教育

第10回 公演予算書作成と団体経営基礎教育

第11回 公演予算書作成と団体経営基礎教育

第12回 公演予算書作成と団体経営基礎教育

第13回 公演予算書作成と団体経営基礎教育

第14回 公演予算書作成と団体経営基礎教育

第15回 講義総括・補強

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

この講座ではパワーポイント資料を使用した知識教育と、講師とディスカッションしながら諸課題を都度こなしていく実践教育を合わせたアクティブラーニングを行う。講義と個別カウンセリングを通じて、受講生の思考や願望を講師が把握し、ありがたい姿に近づくためのアドバイス・改善点を伝えていく。

〔授業時間外の学習〕

- ・選ばれる為の何かを見つける。
 - ・自分のセールスコピーを考え続ける。
 - ・変わっても良いから、講義の時点で卒業してなりたいこと・やりたいことを見つけておく。
- これらの学修に60時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

- ・本・音楽・映画・イベント等、講義内で様々紹介していくので、その中で自分が興味を持ったものをチェックする。
- ・講義での使用資料は、基本プロジェクターで投影する。
- ・紙資料は必要に応じて講師が印刷して配布する。

〔成績評価〕

成績評価については、授業への取り組み60%、諸課題への取り組み40%の配分で総合的に判断する。

S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、諸課題への取り組みが的確かつ秀でた者）

A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、諸課題への取り組みが的確だった者）

B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・諸課題への取り組みが良好だった者）

C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・諸課題への取り組みが不十分だった者）

D 総合点が50点未満の者（授業内容を理解せず、諸課題への取り組み・授業態度等に問題がある者）

〔科目ナンバリング〕

CAE2040B

〔学位授与方針との関係〕

②、③

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

教養
1年生 2年生
2単位 前期
月曜4限
実務経験あり
講義

大谷 賢治郎

〔履修条件〕

子どもならびに若者のための舞台芸術に深い関心があること。

児童青少年教育における演劇の可能性への探求意欲があること。

〔授業の概要〕

世界の児童青少年の演劇事情を学ぶ。

舞台芸術が児童青少年の発達にどのような影響を及ぼすのか学習・研究する。

児童青少年のための舞台芸術作品の創作に挑戦する。

〔授業の到達目標〕

- 世界の児童青少年演劇を学習し、その現状について説明できる。
- 発達心理学の分野等で研究されている、舞台芸術が児童青少年に及ぼす影響を学習し、自らリサーチできる。
- これらの学習を経て、児童青少年のための演劇作品を創作することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 授業の導入

授業内容の説明と目標設定

※ 授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

第 2 回 Theatre for Young Audiences (TYA) とは何か

第 3 回 乳児のための演劇

第 4 回 幼児のための演劇

第 5 回 青少年のための演劇

第 6 回 世界のTYA

第 7 回 児童青少年のための演劇ワークショップの可能性

第 8 回 児童青少年のための演劇ワークショップを考案・発表

第 9 回 発達心理学等における舞台芸術の重要性について

①

基礎

第 10 回 発達心理学等における舞台芸術の重要性について

②

世界の研究成果

第 11 回 発達心理学等における舞台芸術の重要性について

リサーチの発表①前半 (2回に分けて行う)

第 12 回 発達心理学等における舞台芸術の重要性について

リサーチの発表②後半

第 13 回 作品創造①

前半 (2回に分けて行う)

第 14 回 作品創造②

後半

第 15 回 総評

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

提出された課題に対し講評を行い、場合によってはフィードバックを行う。

〔授業時間外の学習〕

課題発表のためのリサーチを行う。作品の執筆に取り組む。これらの学修に60時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

教科書：必要に応じて授業時に配布。

参考書：必要に応じて授業時に配布。

〔成績評価〕

授業への取組み・創造過程への関わり方80%、発表の内容20%の総合的評価。

S 総合点が90点以上の者(授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が大変高く評価できる)

A 総合点が80点以上の者(授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が高く評価できる)

B 総合点が60点以上の者(授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が評価できる)

C 総合点が50点以上の者(授業への取組み、創造過程への関わり方が不十分だが、各課題の発表まで達している)

D 総合点が50点未満の者(授業への取組み、創造過程への関わり方、各課題の発表が評価できない)

〔科目ナンバリング〕

LIA1040B

〔学位授与方針との関係〕

②、④

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

芸術空間論

教養
1年生 2年生
2単位 後期
金曜2限
実務経験あり、
講義

鈴木 健介

〔履修条件〕

芸術空間の歴史に興味があること。

〔授業の概要〕

芸術空間の歴史を舞台美術家の視点で解説する。ギリシア悲劇、聖史劇、ルネサンス演劇など歴史的なものから2.5次元、VRなど現代そして未来の芸術空間へとつなげる。

前半では西洋と日本の空間の歴史を説明していく。

後半では各テーマに沿いながら、過去から未来の芸術空間の考察を行う。

最終的に個人が理想の芸術空間を定義できる所までを目指す。

〔授業の到達目標〕

- ・芸術空間（主に劇場）の歴史の流れが理解できる。
- ・それぞれの芸術空間のカタチの意味を説明できる。
- ・歴史を踏まえ自分の理想の芸術空間を考え出す。

〔授業計画〕

- 第1回 イントロダクション
授業全体の流れを説明する
- 第2回 芸術空間の流れを掴む①
劇場のカタチを考える
- 第3回 芸術空間の流れを掴む②
劇場の大きさを考える
- 第4回 芸術空間の流れを掴む③
日本編1_能楽と方角から考える
- 第5回 舞台空間の流れを掴む④
日本編2_歌舞伎と画面比率から考える
- 第6回 舞台空間の流れを掴む⑤
20世紀の舞台空間から考える
- 第7回 新劇の空間
新劇の空間から考える
- 第8回 シェイクスピアの空間
シェイクスピアの空間から考える
- 第9回 オペラの空間
オペラの空間から考える
- 第10回 ミュージカルと2.5次元の空間
ミュージカルと2.5次元の空間から考える
- 第11回 21世紀の理想の空間
21世紀の理想の空間から考える
- 第12回 テクノロジーと舞台空間
テクノロジーと舞台空間から考える
- 第13回 SDGsとSite specific theaterの空間
SDGsとSite specific theaterの空間から考える
- 第14回 まとめ
第1回目～13回目までの総まとめ

第15回 フィードバック

個人発表。それぞれの理想の空間を1人ずつ発表する。

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

レポート・課題発表時にフィードバックを行う。

〔授業時間外の学習〕

中学程度の日本史・世界史をおさらいしておくこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

授業時に毎回プリントを配布。

〔成績評価〕

出席と授業への取り組み50%、レポート50%の配分で総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が50点未満の者

〔科目ナンバリング〕

LIA2012B

〔学位授与方針との関係〕

①、③

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

音楽基礎演習ーバロック・ダンス

芸術科 > 音楽専攻
1年生
1単位 前期
水曜 3限 水曜 4限
実務経験あり
演習(技術)
必修

浜中 康子

〔履修条件〕

音1 必修。

〔授業の概要〕

17世紀初めの頃から18世紀半ばにかけてフランス宮廷を中心に栄え、ヨーロッパ中に広まっていったダンスをバロック・ダンスと称する。

メヌエットやガヴォット等がその代表的なものであり、日頃演奏や鑑賞を通して関わっているこれらのバロック舞曲を、実際のダンス・ステップを通して体験する。バロック・ダンスのステップや踊り方は、現存する舞踏譜やダンス教本によって300年以上経た今、再現することができる。これらの読み方についても触れ、音楽とダンスの歴史的及び運動的関連性を明らかにする。

ダンスの実習と共に、器楽で舞曲を演奏し、実際にダンスの伴奏を試みたい。

〔授業の到達目標〕

様々な舞曲の中でブレ、メヌエット、ガヴォットを発表できるように仕上げることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 バロックダンスについての概説／テクニクの基礎（ポジション他）
※順序や内容は、履修者の能力や進度に合わせて変更する可能性がある。
- 第 2 回 歴史的背景／テクニクの基礎
- 第 3 回 ブレの基本的ステップ（音楽と動きのアクセントの関係）
- 第 4 回 ブレとメヌエットの基本ステップ①
舞踏譜の読み方
- 第 5 回 ブレとメヌエットの基本ステップ②
舞踏譜の読み方
- 第 6 回 ブレ①
舞踏譜に記述された振付を踊る
- 第 7 回 ブレ②
舞踏譜に記述された振付を踊る
- 第 8 回 発表／ブレのダンスと共に舞踏上の音楽を演奏する
- 第 9 回 メヌエット①
基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
- 第 10 回 メヌエット②
基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
- 第 11 回 メヌエット③
宮廷舞踏のマナーを踏まえて踊る（お辞儀／エスコートの方法）

第 12 回 メヌエットのまとめ①

ガヴォットのステップと練習

第 13 回 メヌエットのまとめ②

ガヴォットのステップを舞踏譜の振付で踊る

第 14 回 メヌエット、ガヴォットの仕上げ／サラバンドやジグについて

第 15 回 メヌエット、ガヴォットの発表／サラバンドやジグについて

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

実技発表の後に、振り返りとして総評を行う。

〔授業時間外の学習〕

・授業中は知的な理解に留まることも身体表現としてスムーズに行えるように、ステップ名と動きを結びつけながらリピーター練習すること。

・下記教科書「舞曲は踊る…」に記載されているQRコードを通して視聴できる動画を模範にして復習すること。

・様々な作曲家・時代の舞曲を数多く演奏・鑑賞すること。これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

書籍：浜中康子「舞曲は踊るーバッハを弾くためのバロック・ダンス入門」（音楽之友社）

DVD：浜中康子監修「フランス宮廷の華『バロック・ダンスへの招待』Ⅰ・Ⅱ」（音楽之友社）

服装：膝の曲げ伸ばしが行いやすいパンツまたはスカート（タイトスカート不可）、ダンスシューズ使用

〔成績評価〕

成績評価については、授業への取り組み50%、実技発表30%、レポート20%を総合的に評価する

S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）

A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）

B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）

C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）

D 総合点が50点未満の者（授業内容を理解しなかった者、学期末試験未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

〔科目ナンバリング〕

MUS1200M

〔学位授与方針との関係〕

④、⑤

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

管楽アンサンブルA | b/B |

芸術科 > 音楽専攻
1年生・2年生
1単位・前期
火曜5限
実務経験あり
演習(技術)
必修
管楽器(Tp・Tb・Tub・Sx専修以外)必修

津川 美佐子

〔履修条件〕

管楽器専修(Tp・Tb・Tub・Sx専修以外)必修。

〔授業の概要〕

木管五重奏を中心に学習していく。各々パート譜をよく読み、5種類の楽器の音色を聞き合い、それぞれの楽器の特徴や奏法を学び合奏の基礎を身につけていく。自身が演奏しない曲目についても各自楽譜を用意して楽曲の理解を深め合奏の基礎や心構えを身につけていく。

〔授業の到達目標〕

作曲家、曲目の背景を自身で調べ、スコアも読みこんで勉強し、メンバーが楽器を通してコミュニケーションをとり音楽を作っていく事ができるようにする。また、他の楽器の特徴や奏法を学ぶことができる。

〔授業計画〕

第1回 授業内容説明と曲目の選択(前期は古典を中心とする)

※学生の状況により、曲目を考え、学生の希望も取り入れていく。

第2回 演奏実習①

第3回 演奏実習②

第4回 演奏実習③

第5回 演奏実習④

第6回 演奏実習⑤

第7回 演奏実習⑥

第8回 演奏実習⑦

第9回 演奏実習⑧

第10回 演奏実習⑨

第11回 演奏実習⑩

第12回 演奏実習⑪

第13回 演奏実習⑫

第14回 演奏実習⑬

第15回 前期の曲の通し演奏

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

随時、その場で行う。

〔授業時間外の学習〕

事前に各々がパートの譜読み、練習をしておくこと。可能であれば、分奏をしておくことが望ましい。これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

特になし。

〔成績評価〕

授業への取り組み姿勢、授業中の演奏を重視。

実習に対する姿勢50%、実技試験50%にて総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が50点未満の者

〔科目ナンバリング〕

MUS1243M/MUS3243M

〔学位授与方針との関係〕

③、④、⑤

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

管楽アンサンブルA II b/B II

芸術科 > 音楽専攻
1年生 2年生
1単位 後期
火曜 5限
実務経験あり
演習(技術)
必修
管楽器(Tp・Tb・Tub・Sx専修以外)必修

津川 美佐子

〔履修条件〕

管楽器専修(Tp・Tb・Tub・Sx専修以外)必修。

1年生はFI専修以外の学生を対象とする。(永井先生に確認をお願いいたします)

前期のIの単位を修得していること。

〔授業の概要〕

後期は、近現代の木管五重奏を中心に学習していく。各々パート譜をよく読み、5種類の楽器の役割、音色、特徴、奏法を聞き合い、合奏の基礎を学ぶ。自身が演奏しない山目についても各自楽譜を用意し、共に楽曲の理解を深め合奏の基礎や心構えを学ぶ。

〔授業の到達目標〕

作曲家、曲目の背景を自身で調べ、スコアも読んで勉強し、メンバー全員で楽器を通してコミュニケーションをとれるようし、音楽を作っていく事を目標とする。また、他の楽器の特徴や奏法を学ぶことができる。

〔授業計画〕

第1回 後期曲目説明と選択(近代作曲家の曲も取り入奏法れる)

※学生の状況により、山目を考え、学生の希望も取り入れていく。

第2回 演奏実習①

第3回 演奏実習②

第4回 演奏実習③

第5回 演奏実習④

第6回 演奏実習⑤

第7回 演奏実習⑥

第8回 演奏実習⑦

第9回 演奏実習⑧

第10回 演奏実習⑨

第11回 演奏実習⑩

第12回 演奏実習⑪

第13回 演奏実習⑫

第14回 演奏実習⑬

第15回 一組ずつ曲の通しをして試験の代わりとする

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

随時、その場で行う。

〔授業時間外の学習〕

事前に各々がスコアを読みパート譜を練習しておくこと。

また、可能であれば分奏しておくことが望ましい。

これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

特になし。

〔成績評価〕

授業への取り組み姿勢、授業中の演奏を重視。

実習に対する姿勢50%、実技試験50%にて総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が50点未満の者

〔科目ナンバリング〕

MUS2243M/MUS4243M

〔学位授与方針との関係〕

③、④、⑤

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

コード論 I

芸術科 > 音楽専攻
2年生
2単位 前期
木曜 4限
実務経験あり
講義

小林 真人

〔履修条件〕

コードの仕組みや活用に関心のある学生。

〔授業の概要〕

コードとは何かを知り、それぞれのコードを覚える。
メロディに対して、シンプルなコード付けをできるようにする。

ハーモニーについて考え、理解を深めることで、各々が演奏する際のアイデアを増やし、音楽表現を豊かにするための一助にする。

コードを元に柔軟に演奏する方法を体験する。

コードの説明、実践はピアノを使用して進め、読み方はドイツ音名ではなく英語読みとする。

〔授業の到達目標〕

- 3和音と4和音のコードを覚える。
- セカンダリードミナントセブンを覚える。
- メロディに対して簡単なコード付けができる。
- コードの機能と連結を理解して、それを元にしたシンプルなコードの発展のさせ方を知る。それらをピアノ等で演奏、表現できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入
コードとは
- 第 2 回 コード論 入門編①
3和音
- 第 3 回 コード論 入門編②
4和音
- 第 4 回 コード論 基礎編①
3和音のダイアトニックコード
- 第 5 回 コード論 基礎編②
4和音のダイアトニックコードと機能
- 第 6 回 コード論 基礎編③
同じ機能内での代理
- 第 7 回 コード付けの実践①
単純なコード付け
- 第 8 回 コード付けの実践②
ボイスング
- 第 9 回 コード論 基礎編④
ドミナントモーションとⅡm7-V7
- 第 10 回 コード論 基礎編⑤
セカンダリードミナントセブン
- 第 11 回 コード論 基礎編⑥
セカンダリードミナントセブンのⅡm7-V7
- 第 12 回 コード付けの実践③
リハモナイズとリズムパターンの組み合わせ

第 13 回 コード付けの実践④
循環コードと逆循環コード

第 14 回 コード付けの実践⑤
様々なコード進行と発展

第 15 回 学習到達度の確認と総括
〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕
レポート、課題発表時にフィードバックを行う。

〔授業時間外の学習〕

復習・予習をして授業に臨むこと。

ピアノ等の和音が出せる楽器を使い、コードのサウンド感を「感覚的」に捉えられるようにする。

これらの学修に60時間を要する。

〔教科書・参考書等〕

授業時に、その都度プリントを渡す。

〔成績評価〕

授業態度（出席含む）50%、課題発表への取り組む姿勢・レポート等での総合評価50%

S 総合点90点以上の者

A 総合点80点以上の者

B 総合点60点以上の者

C 総合点50点以上の者

D 総合点50点未満の者

〔科目ナンバリング〕

MUS3012M

〔学位授与方針との関係〕

①、②

〔他専攻〕

◎

※芸術科2年生以上履修可。

〔キャップ対象外〕

音楽マネジメント

芸術科 > 音楽専攻
2年生
2単位 前期
月曜2限
実務経験あり
講義

楠瀬 寿賀子

〔履修条件〕

音楽や音楽家の社会的な役割を踏まえて、コンサートやアウトリーチ等の企画を考察する意欲を持つ者。

〔授業の概要〕

芸術音楽の制作のノウハウやスキルを学ぶだけでなく、音楽が自らの生きる力を高めるため、また、それによって生まれる豊かな社会を創出する、という考え方に基づいた音楽マネジメントが重要となる。

この授業では、基本的にはマネジメントの様々なシーンで使える考え方やスキルを学んでいくが、その背景にある音楽の社会的役割の重要性を深く考察し、グループディスカッションやワークショップの形態も交えながら、その考えに即した実施方法を学ぶ。

〔授業の到達目標〕

積極的な興味・関心をもとに豊かな知識やスキルを得て、自らが社会におけるニーズに応えられるようになること。

- ・音楽の企画制作の基礎的な能力を身につけることができる。
- ・言葉にしにくい音楽・芸術を扱う上で必要な言語化の力を身につけることができる。
- ・コンサート・アウトリーチ・ワークショップ等の制作手法を理解し、自ら創造することができる。

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
音楽マネジメントとは
- 第2回 コンサートホールなど文化施設の変遷
日本における音楽マネジメントの歴史
- 第3回 芸術文化に関わる法律
文化芸術基本法、著作権法等
- 第4回 音楽企画の社会性①
音楽文化が社会にもたらすもの
- 第5回 音楽企画の社会性②
社会性を踏まえた企画の手法を学ぶ
- 第6回 音楽企画のビジネス的側面
クラシック音楽業界の現状等
- 第7回 企画内容の多様性
演奏家の才能を引き出す等
- 第8回 アウトリーチ・ワークショップ
実例から学ぶ
- 第9回 コンサート
企画立案の事例等
- 第10回 広報と宣伝について
広報・宣伝それぞれの活用方法や広報物の作り方
- 第11回 企画の作り方①

グループディスカッション

- 第12回 企画の作り方②
ワークショップ
- 第13回 企画の作り方③
具体的に企画を提案する
- 第14回 企画の作り方④
企画発表
- 第15回 総括・振り返り

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

課題提出や企画発表後に講評を行い、必要に応じてその後の授業の中で振り返りを行う。

〔授業時間外の学習〕

様々なコンセプトや構成のコンサートにできるだけ足を運び、運営者の立場での観察に努めてほしい。

マスコミやネット等で話題になる音楽や音楽事業、文化会館の動向等に関するニュースに注意を払い、些細なことでもよいので知識や考察の引き出しを増やすことに努めてほしい。

これらの学修に60時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

教科書は使用せず、授業時にプリントを配付。

参考書等も授業内で適宜紹介する。

〔成績評価〕

筆記試験は行わないが、小論文課題を提出してもらう。評価は小論文50点、日常のレポートや発言等50点として採点する。

S 総合点90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）

A 総合点80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）

B 総合点60点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者）

C 総合点50点以上の者（授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者）

D 総合点50点未満の者（授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

〔科目ナンバリング〕

MUS3000M

〔学位授与方針との関係〕

③、④

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

身体トレーニングabc

芸術科 > 演劇専攻

1年生

1単位、前期

火曜2限 火曜3限 火曜4限

実務経験あり

実技

必修

山本 光二郎

〔履修条件〕

必修。

カラダを動かすことをいとわない者。

〔授業の概要〕

カラダで表現することに気付き、可能性を確かめる授業である。テクニックの習得もさることながら、受講者個人のカラダに対する許容範囲を広げることを目的とする。

- ・カラダの柔軟性、カラダの持っているリズムを確認する。
- ・ダンスカンパニーコンドルズの持つ不思議な世界を紹介する。さらに舞台人として自身の見せ方、見られ方を学ぶ。
- ・声や、カラダから出せる音（楽器を含む）などを自身のパフォーマンスと融合することを学ぶ。

〔授業の到達目標〕

カラダを動かすことによって気付く自身の可能性を発見、認識、利用、表現することができる。

〔授業計画〕

- 第1回 授業の導入、紹介
＜カラダほぐし＞
- 第2回 ストレッチする・カラダで遊ぶ・踊るを遊ぶ
＜基本＞①
- 第3回 ストレッチする・カラダで遊ぶ・踊るを遊ぶ
＜基本＞②
- 第4回 ストレッチする・カラダで遊ぶ・踊るを遊ぶ
＜基本＞③
- 第5回 ストレッチする・カラダで遊ぶ・踊るを遊ぶ
＜応用＞④
- 第6回 ストレッチする・カラダで遊ぶ・踊るを遊ぶ
＜応用＞⑤
- 第7回 動きのフレーズを体験する
振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ
＜基本＞①
- 第8回 動きのフレーズを体験する
振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ
＜基本＞②
- 第9回 動きのフレーズを体験する
振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ
＜応用＞③

- 第10回 動きのフレーズを体験する
振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本等メディアを使って踊ることを学ぶ
＜応用＞④
- 第11回 演出を含めた小作品をつくる
コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる
＜稽古＞①
- 第12回 演出を含めた小作品をつくる
コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる
＜稽古＞②
- 第13回 演出を含めた小作品をつくる
コンドルズのダンスを踊ってみる・演出を含めた小作品をつくる
＜稽古＞③
- 第14回 演出を含めた小作品をつくる
＜仕上げ＞④
- 第15回 演出を含めた小作品をつくる
＜発表＞⑤

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

授業ごとに、個々もしくはグループへの動き、演技、演出に対するフィードバックをする。

〔授業時間外の学習〕

授業に参加するには健康であることが大前提であるので、日常的に怪我や病気に注意し、健やかな状態を維持すること。これらの学修に15時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

動きやすい、床に転がってもよい服装。

裸足もしくは靴下。

〔成績評価〕

授業への取り組み重視90%、レポート提出10%を100点に換算する。

S 90点以上の者

A 80点以上の者

B 60点以上の者

C 50点以上の者

D 50点未満の者

〔科目ナンバリング〕

THE1330T

〔学位授与方針との関係〕

②、④

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

演劇特別演習A①②

芸術科 > 演劇専攻
1年生
1単位、後期
月曜3限 月曜5限
実務経験あり
演習(演技)

鴻上 尚史

〔履修条件〕

運動しやすい格好であること。積極的に参加すること。

〔授業の概要〕

俳優の基本である「正しい発声」について徹底的に伝えます。正しい発声を知らずに、演技したり舞台に立つことは俳優としては、重大な損失です。続いて演技の基本である「スタニスラフスキー・システム」を伝えます。演技とは何かを、系統的に理論的に教えます。共に俳優にとっては必修のことです。「正しい身体とは何か？」についても伝えます。プロポーションでも筋肉でもなく、俳優にとって必要な身体とは何か、ということです。

〔授業の到達目標〕

舞台に立つだけではなく、日常でもかれない、表現力豊かな声を獲得できる。また、演技の根本が分かり、演技に対しての恐怖感や自意識、苦手意識を克服できるようになる。

〔授業計画〕

- 第1回 正しい発声とは何か?①
腹式呼吸、胸式、肩式呼吸の違いと、腹式呼吸の特性。
- 第2回 正しい発声とは何か?②
共鳴の5つの身体の場合について。
- 第3回 正しい発声とは何か?③
お腹、つまり丹田で支えるということのメリット。
- 第4回 正しい発声とは何か?④
声のベクトルを意識する。ベクトルとは何か?方向と幅について。
- 第5回 正しい発声とは何か?⑤
それぞれの個人の声の確認。
- 第6回 正しい発声とは何か?⑥
個人の声の確認の続きと声全般の鍛え方、ケアの仕方。発声のまとめ。
- 第7回 正しい身体とは何か?①
正しい身体を外側の視点で検証する。
- 第8回 正しい身体とは何か?②
正しい身体を内側の視点で検証する。アレクサンダーテクニク、フェルデンクライス、野口体操など。
- 第9回 正しい身体とは何か?③
自由な身体とは何か?表現する身体を考える。
- 第10回 スタニスラフスキー・システムについて①
「与えられた状況」を理解する。自意識を取り除くために。
- 第11回 スタニスラフスキー・システムについて②

「魔法のもしマジック・イフ」の視点から演技を考える。

- 第12回 スタニスラフスキー・システムについて③
目的と障害を明確にする。
- 第13回 スタニスラフスキー・システムについて④
目的と障害を明確にした後、それを現す行動を見つけ出す。
短いスキットを演じてみる。
- 第14回 スタニスラフスキー・システムについて⑤
演技を状況ではなく行動から構成する。スキットの続き。
- 第15回 上手な演技とは何か?
上手な演技とは何かを明確に定義する。

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

毎時間、授業の進度に合わせて、適時、学生にフィードバックを行う。スキット発表後は、各学生に講評を行う。毎時間、冒頭に、質問の時間を取り、学生の疑問を受けつけ、それに対して、誠実に対応する。

〔授業時間外の学習〕

授業内で、何をすればよいか適時伝える。

これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

参考書としては、「あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント」(講談社文庫)、「演劇入門」(集英社新書)、「演技と演出のレッスン」「発声と身体レッスン」(白水社)である。が、あくまで参考書であるので、無理に買うことはない。授業でちゃんと行う。

〔成績評価〕

授業への取り組みおよび授業での参加態度100%で評価する。

- S 総合評価90点以上の者
A 総合評価80点以上の者
B 総合評価60点以上の者
C 総合評価50点以上の者
D 総合評価50点未満の者

〔科目ナンバリング〕

THE2232T

〔学位授与方針との関係〕

②、⑤

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

演出論

芸術科 > 演劇専攻
1年生 2年生
2単位 後期
月曜 4限
実務経験あり
講義

鴻上 尚史

〔履修条件〕

特になし。

〔授業の概要〕

「演出とは何か？」この根本的な課題を、戯曲を元に、さまざまなアプローチをすることで明確にしていく。

〔授業の到達目標〕

さまざまな演出の形を理解することができる。また、自分にとっての最適解の演出を考えられる力を身につけることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 演出とは何か？ 総論
演出をどう考えるか？どこまで指示するのが演出なのか？どこまで指示しないのが演出なのか。学生と共に考えてみる。
- 第 2 回 スタニスラフスキーシステム①
スタニスラフスキーシステムで、戯曲にアプローチしてみる。
リーディングをして、学生が演出してみる。
- 第 3 回 スタニスラフスキーシステム②
より深く、スタニスラフスキーシステムでリーディングにアプローチし、それを学生が演出してみる。
- 第 4 回 プレヒト的アプローチ①
プレヒトの戯曲を、プレヒト的に演出するというをやってみる。スタニスラフスキーと何が違うのか。二大演劇論の違いを確認する。
- 第 5 回 プレヒト的アプローチ②
戯曲をリーディングして、プレヒト的アプローチは何かを確認する。
- 第 6 回 新劇的アプローチ
日本の代表的な「新劇」の演出論を確認する。「新劇的」とはなにか？
- 第 7 回 アングラ的アプローチ
60年代、一世を風靡したアングラ的な演出とは何か？リーディングしながら確認する。
- 第 8 回 小劇場的アプローチ
小劇場的なアプローチとは何か？リーディングと共に確認する。
- 第 9 回 静かな演劇的アプローチ
静かな演劇的な演出を確認する。代表的戯曲をリーディングして確認する。
- 第 10 回 ミュージカル的アプローチ
ミュージカルにおける演出とは何か？代表的なシーンを確認しながら、演出を明確にする。

- 第 11 回 それぞれの演出論①
ひとつの戯曲、例えばシェークスピアのワンシーンを、さまざまな演出方法で演出してみて、その違いを確認する。
- 第 12 回 それぞれの演出論②
講師の指導の元、学生がさまざまな演出の仕方を実践してみる。学生と講師より、適時フィードバックする。
- 第 13 回 それぞれの演出論③
希望者がいれば、多くの学生に「演出」を体験してもらう。それによって見えてくるものを確認する。
- 第 14 回 それぞれの演出論④
さらに、さまざまな演出論を、多くの学生で演出してみる。
- 第 15 回 まとめ
学生それぞれに、「自分の考える演出と何か？」を見つけてもらう。

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

発表とリーディング後に随時、振り返りをする。

〔授業時間外の学習〕

自分の選んだ演出論の予習をして、リーディングの戯曲を選び、発表の準備をしておくこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

授業時にその都度プリントを配付する。参考文献としては、「演劇入門」(鴻上尚史 集英社新書)「名セリフ！」(鴻上尚史 ちくま文庫)がある。買う必要はない。授業中に適時、伝える。

〔成績評価〕

受講態度60%、課題への積極性20%、課題の理解度20%にて総合的に評価する。

S：90点以上の者

A：80点以上の者

B：60点以上の者

C：50点以上の者

D：50点未満の者

〔科目ナンバリング〕

THE2020T

〔学位授与方針との関係〕

①、③

〔他専攻〕

○

〔キャップ対象外〕

○

狂言 I ①②

芸術科 > 演劇専攻
1 年生
1 単位 後期
木曜 1 限 木曜 2 限
実務経験あり
実技
必修
日本音楽専修必修

善竹 大二郎

〔履修条件〕

特になし。

音楽専攻日本音楽専修は必修。

〔授業の概要〕

- 丹田を意識した腹式呼吸を、狂言の謡から体得する。
- 隙のない身体表現を、狂言の小舞を舞うことで体得する。
- 狂言「附子」または「呼声」の実習で、狂言の演出や感情表現を学ぶ。

〔授業の到達目標〕

- 狂言の発声（日本古来の声の出し方）を身につけ、隙のない身体表現と狂言の感情表現を知ることができる。
- 浴衣・袴の着付けを体得できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
浴衣・袴の着付と「盃」の謡①
※ 授業内容に関しては、その進行具合により、多少変更する場合がある。
- 第 2 回 「盃」の謡②
声楽と謡の違い
- 第 3 回 「盃」の謡③・「盃」の舞①
摺り足について
- 第 4 回 「盃」の謡④・「盃」の舞②・「泰山府君」の謡①・
狂言の台本読み①
- 第 5 回 「盃」の謡⑤・「盃」の舞③・「泰山府君」の謡②・
狂言の台本読み②
- 第 6 回 「盃」の舞④・「泰山府君」の謡③・「泰山府君」
の舞①・狂言の台本読み③
- 第 7 回 「盃」の舞⑤・「泰山府君」の謡④・「泰山府君」
の舞②・狂言の台本読み④
- 第 8 回 「泰山府君」の謡⑤・「泰山府君」の舞③・「土
車」の謡①・狂言の立ち稽古①
- 第 9 回 「泰山府君」の舞④・「土車」の謡②・「土車」の
舞①・狂言の立ち稽古②
- 第 10 回 「土車」の謡③・「土車」の舞②・狂言の立ち稽古
③
- 第 11 回 「土車」の謡④・「土車」の舞③・狂言の立ち稽
古④
- 第 12 回 「土車」の謡⑤・「土車」の舞④・狂言の立ち稽
古⑤
- 第 13 回 「土車」の舞⑤・狂言の立ち稽古⑥
- 第 14 回 狂言の立ち稽古⑦
役決め

第 15 回 謡と舞の復習・狂言の立ち稽古⑧

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

リアクションペーパー・小テストにて、フィードバックを
行う。

〔授業時間外の学習〕

授業内容を踏まえ、自主練習を行うこと。

これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

「狂言ハンドブック」（三省堂）

〔成績評価〕

平常点（授業への取組み・受講態度）50%、実技点50%を総
合的に判断する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が50点未満の者

〔科目ナンバリング〕

THE2331T

〔学位授与方針との関係〕

①、⑤

〔他専攻〕

○

〔キャップ対象外〕

—

劇作法

芸術科 > 演劇専攻
1年生・2年生
1単位 前期
金曜4限
実務経験あり、
講義

川村 毅

〔履修条件〕

俳優志望者。演出家志望者。劇作家志望者。
さらに舞台に関わるスタッフすべての志望者。

〔授業の概要〕

すべての舞台関係者にとって戯曲の読解は必須である。劇作家志望者のもとより、俳優、演出家、スタッフは何より戯曲を読み、理解しなければならない。当授業は何本かの戯曲を声に出して読み、戯曲というものをどう読み込み、理解するか、小説等他文芸ジャンルの読み方とどこに違うか、そして理解した作品をいかに台詞として成立させ、舞台化していくかを学ぶ。

〔授業の到達目標〕

戯曲の読解力。履修者は戯曲の読み方を理解できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 戯曲とは何か
戯曲という文芸ジャンルの起源、あり方、書き方の基礎を学ぶ。
- 第 2 回 戯曲を読む1
川村毅の戯曲『路上』を声に出して読む。
- 第 3 回 ディスカッション
読み上げた戯曲についてレポートを提出し、それをもとにディスカッションする。
- 第 4 回 戯曲を読む2
川村毅の戯曲『路上2』を読む。
- 第 5 回 ディスカッション
読み上げた戯曲についてレポートを提出し、それをもとにディスカッションする。
- 第 6 回 戯曲を読む3
川村毅の戯曲『路上3』を声に出して読む。
- 第 7 回 ディスカッション
読み上げた戯曲についてレポートを提出し、それをもとにディスカッションする。
- 第 8 回 戯曲を読む4
川村毅の戯曲『路上4』を声に出して読む。
- 第 9 回 ディスカッション
読み上げた戯曲についてレポートを提出し、それをもとにディスカッションする。
- 第 10 回 戯曲を読む5
川村毅の戯曲『路上5』を声に出して読む。
- 第 11 回 ディスカッション
読み上げた戯曲についてレポートを提出し、それをもとにディスカッションする。
- 第 12 回 戯曲を読む6

川村毅の戯曲『路上6』を声に出して読む。

- 第 13 回 ディスカッション
読み上げた戯曲についてレポートを提出し、それをもとにディスカッションする。
- 第 14 回 戯曲を読む7
川村毅の戯曲『路上7』を声に出して読む。
- 第 15 回 まとめ
読み上げた戯曲についてレポートを提出し、それをもとにディスカッションする。戯曲の読み方、構造分析について総まとめをする。

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

レポートに対してのフィードバックは常に授業内に取り込まれている。

〔授業時間外の学習〕

内外問わず様々な劇作家の戯曲をできる限り多く読むこと。川村毅の戯曲以外でも授業で紹介する劇作家の戯曲は目を通すこと。

〔教科書・参考書等〕

授業時に指示もしくはプリントを配付する。

〔成績評価〕

授業への取り組み50%、レポートの提出度50%で評価する。

S 総合点が90点以上の者（ディスカッションに積極的に参加し、戯曲読解への取り組みが的確かつ秀でた者）

A 総合点が80点以上の者（ディスカッションに積極的に参加し、戯曲読解への取り組みが的確だった者）

B 総合点が60点以上の者（ディスカッションに参加し、戯曲読解への取り組みが良好だった者）

C 総合点が50点以上の者（ディスカッションに参加せず、戯曲読解への取り組みが不十分だった者）

D 総合点が50点未満の者（出席日数が足りない等授業の取り組みに欠けた者）

〔科目ナンバリング〕

THE2010T

〔学位授与方針との関係〕

①、③

〔他専攻〕

○

〔キャップ対象外〕

—

舞台照明実習②

芸術科 > 演劇専攻
1年生
1単位・前期集中
実務経験あり
実習 (staff)
照明部対象

兼子 慎平

〔履修条件〕

照明部の学生を対象とする。

実習が主になるので、稽古着・稽古履等動きやすい服装で受講すること。

また、(舞台)照明に興味があること。舞台照明作業に一度でも触れていることが望ましい。

〔授業の概要〕

参加者全体で取り組む舞台照明の作業を通して、各々の協調性・自立性、またそのバランスのとり方を体で認識すること。そしてその認識を頭と体で昇華し、それぞれの段階で作業に「実践」してみるところまでを、この実習では求めることとする。

作業の中で上記過程を繰り返すことにより、基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を学ぶことを目標とする。照明と演者の関係を考察してみる機会も提供する。

〔授業の到達目標〕

基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を身につけることができる。

〔授業計画〕

第1回 照明機材についての基本的知識

第2回 照明の仕込み作業を学ぶ①(午前)

第3回 照明作業における適切なコミュニケーションについて

第4回 照明の仕込み作業を学ぶ②(午後)

第5回 特殊機材を扱う/舞台照明(シーン)を作る

第6回 質疑応答

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

実習終了時に、振り返りとして総評を行う。

〔授業時間外の学習〕

舞台照明に触れる機会があれば積極的に参加すること。

舞台照明に関わる書籍を読み、用語等知識を増やしておくこと

安全に作業するにはどんな点に留意すればよいか、必要な事を口ごろから考察すること。

同セクション、他の各スタッフや演出家とコミュニケーションをとる上で

「意味が伝わりやすく」かつ「正確な言葉」で伝えられるよう日頃から実践すること。

これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

参考図書：

藤井直 著「ステージ・舞台照明入門 舞台の基礎からDMX、ムービングまで」(リットーミュージック)

小川昇 著「光のデザインから舞台照明のつくり方まで」

(レクラム社)

石井強司 著「舞台美術・照明・音響効果篇(高校生のための実践演劇講座)」(白水社)

藤井直他著「ネットワーク時代のステージ照明システム構築」

岩城保 著「新・舞台照明講座:光についての理解と考察」(レクラム社) 他

〔成績評価〕

授業への取り組みと積極性60%、講義内容・作業への理解度40%にて総合的に評価する。

S 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性の両方が認められ、特にリーダーシップも発揮できる者

A 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性の両方が認められた者

B 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性どちらか一方でも認められた者

C 積極性にはやや欠けるが、講義内容を努めて真面目に理解しようと認められた者

D 積極性に欠け、講義内容も理解しようと認められなかった者

〔科目ナンバリング〕

THE1541T

〔学位授与方針との関係〕

②、④

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

○

舞台音響実習①

芸術科 > 演劇専攻
1年生
1単位 前期集中
実務経験あり
実習 (staff)
音響部以外対象

佐藤 こうじ

〔履修条件〕

音響部以外の学生を対象とする。

〔授業の概要〕

舞台における俳優が知っておくとよい音響の知識を学ぶ。音響的なことではなく、俳優視点の授業である。授業の最後に、実習を行う。

〔授業の到達目標〕

- 音響の仕事、機器の扱いを理解することにより、スタッフの意図を汲み、よりクオリティの高い作品づくりを目指すことができる。
- 「伝える」ことの難しさを理解できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 搬入、仕込み、サウンドチェックの説明
機材の持ち方、運び方、置き方、仕込み時間の音響の仕事の説明
- 第 2 回 ライブハウスPA、舞台音響、ミュージカル音響の違い
音響の仕事の説明
- 第 3 回 スピーカーの向きの検証（モニターの必要性）
モニターがないとどのように聞こえるのか
- 第 4 回 カラオケボックスでキーンとなるのは何故か（ハウリングの検証）
舞台でハウリングが起きる原因を説明
- 第 5 回 有線マイク、ワイヤレスマイク（ハンドマイク、ピンマイク）の取り扱い
正しいマイクの使い方
- 第 6 回 サンプラーの紹介（刀の音、殴る、蹴る等の音を動きと合わせる音響効果）
俳優の動きに合わせる。
- 第 7 回 実習の場当たり（チームごとに分かれる）
俳優チーム 音響チームと分かれて班をつくり、場当たり
- 第 8 回 実習
俳優チーム 音響チームと分かれて班をつくり、実習
- 第 9 回 撤去
安全な撤去を目指しましょう。

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

発表後、振り返りとして総評を行う。

〔授業時間外の学習〕

実習で使用するプリントを事前配布するので、目を通し理解しておくこと。

〔教科書・参考書等〕

プリントを配布する。

筆記用具、舞台で動けるようなシャツ、ズボン着用のこと。小劇場で作業をするために必要な上履き、運動靴着用のこと。

〔成績評価〕

授業への取組み50%、実習への取組みと態度50%を100点換算して評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が50点未満の者

〔科目ナンバリング〕

THE1542T

〔学位授与方針との関係〕

②、④

〔他専攻〕

○

〔キャップ対象外〕

○

舞台音響実習②

芸術科 > 演劇専攻
1年生
1単位、前期集中
実務経験あり
実習（staff）
音響部対象

宮崎 淳子

〔履修条件〕

音響部の学生を対象とする。

〔授業の概要〕

基本的な音響機材の使用方法、効果を知り、学内イベントや稽古でのセッティング、オペレートに役立てる。

〔授業の到達目標〕

- 音響機材の信号の流れを理解し、基本的な結線がスピーディーに行うことができる。
- 簡単なトラブルシューティングができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ケーブルの名称を再確認、統一する。
第 2 回 機材の用途、機能を知る。
第 3 回 仕込図（配線図）を書くことができるようにする。
第 4 回 信号の流れに沿った結線をする。
第 5 回 スピーカー吊り込み作業の補助、高所作業時の注意点を学ぶ。
第 6 回 2人1組で5分以内に卓周りの結線をする。
第 7 回 音が正常に出ない時の原因究明の方法
第 8 回 台本への書き込み方、音のIN/OUTの技法を学ぶ。

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

授業後に、振り返りとして総評を行う。

〔授業時間外の学習〕

適宜、指示する。

〔教科書・参考書等〕

授業時にプリントを配布。

〔成績評価〕

実技試験70%、筆記試験30%で100点に換算。

- S 90点以上の者
A 80点以上の者
B 60点以上の者
C 50点以上の者
D 50点未満の者

〔科目ナンバリング〕

THE1543T

〔学位授与方針との関係〕

②、④

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

○

室内楽研究 B/D a

専攻科 > 音楽専攻
1 年生・2 年生
2 単位 後期
火曜 2 限
実務経験あり
演習 (技術)

阪本 奈津子

〔履修条件〕

特になし。

〔授業の概要〕

学生と室内楽要員によるアンサンブルを通して、基本的な合奏能力の向上、各作曲家のスタイルの理解を深める。

〔授業の到達目標〕

互いに尊重し、楽しみながら音楽作りをしていく中でアンサンブルの基本を習得することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入および曲目の検討
※専攻楽器の種類によって、変更あり。
- 第 2 回 古典派の室内楽作品 モーツァルト①
ピアノと弦楽器 二重奏
- 第 3 回 モーツァルト②
三重奏以上の編成
- 第 4 回 モーツァルト③
管楽器を含む室内楽作品
楽器の相違によるフレー징の注意点
- 第 5 回 ハイドンの室内楽作品①
モーツァルトとの関連性ー弦楽四重奏曲
- 第 6 回 音程について 純正律と平均律 ハイドン②
ピアノを含む室内楽作品
- 第 7 回 ベートーヴェン①
ベートーヴェンにおける強弱記号の捉え方
- 第 8 回 ベートーヴェン②
二重奏から五重奏
- 第 9 回 シューベルト①
シューベルトの音色の選び方
- 第 10 回 シューベルト②
ピアノとの室内楽
- 第 11 回 シューマン①
古典派、ロマン派によるヴィブラートの違い
弦楽器の室内楽作品
- 第 12 回 シューマン②
ピアノを含む室内楽作品
- 第 13 回 ドヴォルザーク①
国民楽派
関連する作曲家について
弦楽器の室内楽作品
- 第 14 回 ドヴォルザーク②
ピアノを含む室内楽作品
- 第 15 回 まとめと確認

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

演習発表時に個別 (グループ) に指導、フィードバックを行う。

〔授業時間外の学習〕

課題になった作品を、各自、各グループで事前に練習を行うこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

特になし。

〔成績評価〕

成績評価については、受講態度40%、課題に取り組む姿勢40%、演奏成果20%の結果を総合的に判断して行う。

S 総合点が90点以上の者 (授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。

A 総合点が80点以上の者 (授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者)。

B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者)。

C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者)。

D 総合点が50点未満の者 (授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)。

〔科目ナンバリング〕

MUS2242MA/MUS4242MA

〔学位授与方針との関係〕

④、⑤

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

室内楽研究B/D b

専攻科 > 音楽専攻
1年生、2年生
2単位 後期
金曜2限
実務経験あり、
演習（技術）

藤沼 恵美子

〔履修条件〕

ピアノ専修の学生を対象とするが、ピアノを含む室内楽曲（ただし声楽曲を除く）を体得したい他の器楽専修の学生の履修も可。

〔授業の概要〕

ピアノを含む室内楽作品を取り上げ、アンサンブルにおける奏法や音楽作りを学んでいく。

アンサンブルにおいては、ソロ以上に音に対する意識や音楽の柔軟性が求められる場合がある。共演する楽器の特性を踏まえた上で、作曲家が意図する音楽表現のために必要なそれぞれのパートの役割や演奏技術を実践で学ぶ。演奏員の協力も得て、マスタークラスの形式で授業を進める。

〔授業の到達目標〕

アンサンブルにおける奏法を修得し、共に音楽をつくり上げる室内楽の楽しさを実感できることを目標に、曲を仕上げる。

具体的には以下の点を到達目標とする。

- ・相手の音をよく聴き、呼吸を合わせることができる。
- ・各々の楽器との響きの融合を考えた音作りができる。
- ・表現のためのそれぞれの楽器のアプローチの仕方を知ることによって、音楽的視野を広げることができる。
- ・楽曲の様式や作曲家の意図を踏まえた、より幅広い表現ができる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーションおよび曲目とメンバーの決定
※授業の進行は履修者の人数によって変更することがある。

※試験期間中に発表演奏会を行う。

- 第 2 回 アンサンブル実習①
- 第 3 回 アンサンブル実習②
- 第 4 回 アンサンブル実習③
- 第 5 回 アンサンブル実習④
- 第 6 回 アンサンブル実習⑤
- 第 7 回 アンサンブル実習⑥
- 第 8 回 アンサンブル実習⑦
- 第 9 回 アンサンブル実習⑧
- 第 10 回 アンサンブル実習⑨
- 第 11 回 アンサンブル実習⑩
- 第 12 回 アンサンブル実習⑪
- 第 13 回 アンサンブル実習⑫
- 第 14 回 アンサンブル実習⑬
- 第 15 回 アンサンブル実習⑭

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

演習発表時に指導・フィードバックを行う。

〔授業時間外の学習〕

各自個人練習及び合わせ等、十分に準備して授業に臨むこと。準備不足では、アンサンブルを楽しむことはできない。事前に音源を聴いたり、スコアを見る等、他のパートにも目を向けておくこと。

これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

授業で演奏するグループが、演奏曲の楽譜をその都度配布する。

〔成績評価〕

成績評価については、授業への取り組み・意欲70%、発表演奏の成果30%にて総合的に行う。

S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、授業への取り組み・意欲、演奏能力が的確かつ秀でた者）

A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、授業への取り組み・意欲、演奏能力が的確だった者）

B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が良好だった者）

C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が不十分だった者）

D 総合点が50点未満の者（授業内容を理解しなかった者、授業への取り組み・意欲、演奏能力等に問題がある者）

〔科目ナンバリング〕

MUS2242MA/MUS4242MA

〔学位授与方針との関係〕

④、⑤

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

室内楽研究B/Dc

専攻科 > 音楽専攻
1年生 2年生
2単位 後期
月曜3限
実務経験あり
演習(技術)

吉岡 次郎

〔履修条件〕

管楽器専修を中心とするが、他専修の受講も可。
アンサンブル(管楽器+弦楽器、ピアノ等)に興味と意欲のある学生。

〔授業の概要〕

フルートを中心とする二重奏～複数のアンサンブルを基盤に、レパートリー修得と室内楽での演奏法や基礎を学ぶ。並びに、授業当日指定で初見のアンサンブル実習も催し、そこで様々な対応力を学ぶ。

〔授業の到達目標〕

個々の技術の更なる向上と、室内楽における他者との合わせ方、リードの仕方、協調性等を習得する。
初見練習においてはリズムや調性を瞬時に感じる力や、難しいパッセージに対応する力等を習得する。

〔授業計画〕

- 第1回 受講生の習熟度の確認と初見演奏について
- 第2回 学習曲目の検討および組み合わせと初見演奏実習①
- 第3回 アンサンブル実習、初見実習②
- 第4回 アンサンブル実習、初見実習③
- 第5回 アンサンブル実習、初見実習④
- 第6回 アンサンブル実習、初見実習⑤
- 第7回 アンサンブル実習、初見実習⑥
- 第8回 アンサンブル実習、初見実習⑦
- 第9回 アンサンブル実習、初見実習⑧
- 第10回 アンサンブル実習、初見実習⑨
- 第11回 アンサンブル実習、初見実習⑩
- 第12回 アンサンブル実習、初見実習⑪
- 第13回 アンサンブル実習、初見実習⑫
- 第14回 アンサンブル実習、初見実習⑬
- 第15回 アンサンブル発表

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

各回の初見実習の発表後に総評を行い、必要な場合は個別にフィードバックを行う。

〔授業時間外の学習〕

個々の練習と合わせを授業前に的確に行って準備しておくこと。

これらの学修に60時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

必要に応じて教員より指示する。

〔成績評価〕

成績評価については、授業への取り組み70%、課題発表(発表演奏会)30%の配分で総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題

への取り組みが的確かつ秀でた者)

A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)

B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが良好だった者)

C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解・課題への取り組みが不十分だった者)

D 総合点が50点未満の者(授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み・受講態度等に問題がある者)

〔科目ナンバリング〕

MUS2242MA/MUS4242MA

〔学位授与方針との関係〕

④、⑤

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

専攻科 > 音楽専攻
1年生 2年生
2単位 前期
金曜2限
実務経験あり
演習(技術)

菊池 奏絵

〔履修条件〕

楽譜を見たまま正確に演奏するだけでなく、作品にふさわしい様式感、演奏習慣等に興味を持ち、様々な角度から視野を広げたい者。

〔授業の概要〕

本授業では、バロック時代から古典派の音楽を主な題材とし、実践を通して学んでいく。様式感、演奏習慣とは何か。音楽学的考察や現在の実践現場から見えてくる様々な方面からのアプローチを知り、アンサンブルを試みる。自分の専修以外の楽器や声楽との関わり、表現と演奏方法についても考える。

各回の内容は全てリンクしており、履修生の理解度、興味により授業内容の順序を変えていく可能性がある。演奏の実践を中心に進めるが、講義も取り入れながら総合的に学んでいく。

アンサンブルを組み、授業内でのレッスンを重ね、最後に発表を行う。

〔授業の到達目標〕

これまでの時代の演奏習慣を知り、自分の演奏に活かしていく。どのように演奏したらその作品が生きるかを自分で考えることができる。過去の音楽の影響を受けているその後の作曲家への理解が深まり、あらゆる時代の音楽と関連付けることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 歴史的知識に基づく演奏とは
- 第 2 回 楽譜について
- 第 3 回 アンサンブル組み
- 第 4 回 バロック時代周辺の楽器について
- 第 5 回 演奏習慣について
- 第 6 回 通奏低音①
数字の理解
- 第 7 回 通奏低音②
基本形
- 第 8 回 アンサンブル中間発表
- 第 9 回 装飾法①
フランス様式
- 第 10 回 装飾法②
イタリア様式
- 第 11 回 舞曲、組曲について
- 第 12 回 当時の文献を読む
- 第 13 回 音楽修辞学について
- 第 14 回 アンサンブル仕上げ
- 第 15 回 発表

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

授業演奏時に個別、グループにアドバイス、フィードバックを行う。

〔授業時間外の学習〕

アンサンブル曲の情報収集を図書館等を利用して、自分なりにやってくる。

個人練習、グループでの練習を十分にしてくる。

これらの学修に60時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

プリントを配布。

授業内で参考書を紹介する。

〔成績評価〕

授業への取り組み50%、理解度25%、演奏の成果25%とし、総合的に評価する。

S 総合点90点以上の者(積極的に取り組み、知識を自分のものにし、演奏に成果が表れる)

A 総合点80点以上の者(積極的に取り組み、理解を深めようとし、演奏に変化が見られる)

B 総合点60点以上の者(積極的に取り組み、演奏に生かそうとする)

C 総合点50点以上の者(程よく取り組み、程よく演奏する)

D 総合点50点未満の者(取り組む姿勢に欠け、演奏の変化が見られない)

〔科目ナンバリング〕

MUS1240MA/MUS3240MA

〔学位授与方針との関係〕

④、⑤

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

ギター・アンサンブルC/D

専攻科 > 音楽専攻
1年生 2年生
2単位 通年
木曜3限
実務経験あり
演習(技術)
必修
ギター専修必修

佐藤 紀雄

〔履修条件〕

ギター専修者必修。

ギター専修者のみ履修可とする。

〔授業の概要〕

古典から現代までのギターアンサンブル作品、編集作品に加え学生自身の作品、編曲による作品等を取り上げる。独奏楽器であるギターの修得課程でアンサンブルの経験や技術を磨く機会を得ることは特に重要であり、将来様々な楽器とのアンサンブルに役立ててもらいたい。その経験を活かし各自の音楽活動の幅を広げてもらいたい。

〔授業の到達目標〕

年2回の自主的発表会に向けて、課題曲の演奏を完成させる。その練習の課程で様々な時代の様式を同時に学ぶことができる。アンサンブルを行う上で何が必要な技術かを知ることができる。

〔授業計画〕

- 第1回 カルメン組曲①
必要な技術を確認し、習得へ向けた計画づくり
- 第2回 カルメン組曲②
各パート毎の達成状況を見る
- 第3回 カルメン組曲③
アンサンブルの難所を集中して練習する
- 第4回 カルメン組曲④
各曲がオペラのどのような場面で使われているかを調べる
- 第5回 カルメン組曲⑤
①～④を踏まえて表現方法を追究していく
- 第6回 ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲①
いくつかの独特の奏法の演奏法を確認する
- 第7回 ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲②
各パートずつ互いに聴き合い理解しておく
- 第8回 ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲③
アンサンブルの中で各パートの役割を確かめ合う
- 第9回 ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲④
オペラについて調べ、各エピソードが出てくる場面を理解する
- 第10回 ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲⑤
息の長いフレーズ起伏の激しさを表現する
- 第11回 バンドゥークイッカン①
各パートの難所の練習課題を見つける
- 第12回 バンドゥークイッカン②
各パート同士の役割を理解する

- 第13回 バンドゥークイッカン③
ラテンアメリカ独特のリズムについて調べ、リズムの練習をする
- 第14回 バンドゥークイッカン④
ラテンアメリカのリズムが作品の中でどのように応用されているかを試す
- 第15回 バンドゥークイッカン⑤
11～14を踏まえて表現を実現する
- 第16回 レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」①
各パートを練習
- 第17回 レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」②
二組みずつで合わせて他を聞く
- 第18回 レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」③
現代の作曲様式の影響を理解する
- 第19回 レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」④
特殊なアンサンブルを理解する
- 第20回 レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」⑤
様々な演奏形態を試す
- 第21回 ラヴェル「ラ・ヴァルス」①
多くあるパートの難所を練習する
- 第22回 ラヴェル「ラ・ヴァルス」②
複雑に絡み合った所を理解する
- 第23回 ラヴェル「ラ・ヴァルス」③
全体を通して流れをつかむ
- 第24回 ラヴェル「ラ・ヴァルス」④
この作品の成立の課程を調べ、このワルツの特性を理解する
- 第25回 ラヴェル「ラ・ヴァルス」⑤
めまぐるしく変化するテンポを表現できるようにする
- 第26回 ヴィヴァルディー四季より「春」①
この曲に必要な技術を準備する
- 第27回 ヴィヴァルディー四季より「春」②
各パート毎に弾いて役割を理解する
- 第28回 ヴィヴァルディー四季より「春」③
テンポの激しい変化を皆で理解し練習する
- 第29回 ヴィヴァルディー四季より「春」④
バロック音楽の特徴を調べ、合わせた表現
- 第30回 ヴィヴァルディー四季より「春」⑤
作品の中での自然の描写を豊かに再現する

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

演奏上、またはモチベーションの上で問題を抱えている学生には、個々に面談し解決する方法を探してゆく。一方でアンサンブルの上での問題を発見した場合は、皆で話し合う。

〔授業時間外の学習〕

あらかじめ課題についての知識を得、また技術的に足りない箇所を準備しておく。

これらの学修に60時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

課題曲の楽譜と参考資料

〔成績評価〕

成績評価については、授業への取り組み30%、課題への取り組み30%、期末試験40%にて総合的に判断して行う。

S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確かつ秀でた者）

A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力・課題への取り組みが的確だった者）

B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが良好だった者）

C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解・演奏能力・課題への取り組みが不十分だった者）

D 総合点が50点未満の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力・授業への取り組み・受講態度等に問題がある者）

〔科目ナンバリング〕

MUS2247MA/MUS4247MA

〔学位授与方針との関係〕

④、⑤

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

演出研究

専攻科 > 演劇専攻
1年生 2年生
2単位 前期
月曜2限
実務経験あり
講義

小山 ゆうな

〔履修条件〕

- 授業時間外も準備をすること。
- 演出に興味を持ち、積極的にグループワークに参加すること。

〔授業の概要〕

古典・現代翻訳劇・現代日本語劇の3パターンの課題シーンを紹介。

課題シーンまたは、自ら選んだシーンを使用し、演出プランを作成する。

演出の要である①戯曲解釈 ②多様なキャスト・スタッフの持ち味をいかに生かすか、の2点を中心にシーンを創作していく。

〔授業の到達目標〕

- 戯曲解釈の基本を習得できる。
- シーンを立ち上げ、上演に向かうプロセスを合理的に進める力を養うことができる。
- 演劇シーンへの意見の伝え方を学び、同時に他者の意見を自己の表現に活かす能力を養うことができる。

〔授業計画〕

- 第1回 イン트로ダクション
演出の仕事について
戯曲解釈について
課題戯曲の紹介
- 第2回 課題戯曲（古典・現代翻訳劇・現代日本語劇）の分析
課題戯曲または生徒の選んだシーンを本読み・分析・戯曲の中のシーンの見つけ方
- 第3回 グループワーク
人物シートの作成・演出シート作成
本読み
- 第4回 シーン本読み 立ち稽古①
- 第5回 シーン立ち稽古②
- 第6回 シーン立ち稽古③
- 第7回 シーン立ち稽古④
- 第8回 シーン立ち稽古⑤
- 第9回 シーン発表リハーサル①
- 第10回 シーン発表リハーサル②
- 第11回 シーン発表リハーサル②
- 第12回 シーン発表① 互いのシーンへの合評
- 第13回 シーン発表① 互いのシーンへの合評
- 第14回 シーン発表② 互いのシーンへの合評
- 第15回 シーン発表② 互いのシーンへの合評

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

- 日々の稽古に対するコメント
- シーン発表後、今後の課題と成果を個々にコメント

〔授業時間外の学習〕

授業では複数の戯曲の抜粋を扱って実践的に創作していくため、受講生が事前に作品を読み全容を把握しておくことが望ましい。

これらの学修に60時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

必要な資料は授業時に配布する。

〔成績評価〕

授業への取り組み20%、テキストへの理解10%、白らを研鑽する意欲10%、事前準備の度合い10%、成果発表への評価50%にて総合的に評価する。

S：総合点90点以上の者

A：総合点80点以上の者

B：総合点60点以上の者

C：総合点50点以上の者

D：総合点50点未満の者

〔科目ナンバリング〕

THE1020TA

〔学位授与方針との関係〕

④、⑤

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

映像映画研究

専攻科 > 演劇専攻
1年生 2年生
2単位 後期集中
実務経験あり
講義

山岡 信貴

〔履修条件〕

長編映画を観たことがあれば、その他の条件は必要ない。

〔授業の概要〕

映画の制作現場で行われていることやその効果の研究をベースにして、映画という表現手法がどのように成立しているのかについて、歴史的経緯を含めて講義し、その中での俳優の役割がどうなっているかやそれに映像技術がどう貢献するかについてを並行して学ぶ。また、映画以外にも多様になってゆく映像表現全般についても考察してゆく。

答えが必ずしもひとつではない内容を多数含んでいるため、授業テーマによっては、実践的な内容やディスカッションを導入することもある。

〔授業の到達目標〕

「映画とは何か」を俯瞰しながら、映画制作の実際の流れを理解し、映像における演技の特徴やそれに対する映像技術面を通しての効果を事例を通して把握する。

〔授業計画〕

第 1 回 映画とはどのようにできているのか？

※授業の進行によっては、内容が前後する可能性がある。

第 2 回 映画制作の概要

第 3 回 映画における俳優の役割

第 4 回 映画史における俳優の変遷

第 5 回 映画撮影の現場①

第 6 回 映画撮影の現場②

第 7 回 カメラと俳優①

第 8 回 カメラと俳優②

第 9 回 編集と俳優①

第 10 回 編集と俳優②

第 11 回 音声と俳優

第 12 回 映画における嘘

第 13 回 映画とテレビ

第 14 回 複製芸術

第 15 回 映画とは何か？

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

基本的には授業内で実施する。それが難しい内容の場合は、メール等で対応する。

〔授業時間外の学習〕

必要に応じて都度指示を出す。基本的な方針としては、授業で理解したことや疑問に思ったことを意識しながら既存の映画を鑑賞し、気付いたことを授業のディスカッション等で提示する。

これらの学修に60時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

授業では必要なし。

以下は参考になる資料なので、授業とは関係なく読んだ方がよい。

ロバート・H.ヘスマン「リー・ストラスバーグとアクターズ・スタジオの俳優たち」(劇書房)

フランソワ・トリュフォー、アルフレッド・ヒッチコック「定本映画術ヒッチコック・トリュフォー」(晶文社)

ロベール・ブレッソン「シネマトグラフ覚書」(筑摩書房)

〔成績評価〕

授業への取り組み50%、レポート50%の配分で総合的に評価する。

S 総合点90点以上の者(授業内容の理解と授業への取り組みが優れている者)

A 総合点80点以上の者(授業内容の理解と授業への取り組みができてきている者)

B 総合点60点以上の者(授業内容の理解と授業への取り組みがほぼできてきている者)

C 総合点50点以上の者(授業内容の理解と授業への取り組みが不十分な者)

D 総合点50点未満の者(授業内容の理解と授業への取り組みに問題がある者)

〔科目ナンバリング〕

THE2002TA

〔学位授与方針との関係〕

①、③

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

演技研究C（現代劇）(1) 1 年次

専攻科 > 演劇専攻
1 年生
1 単位・前期
月曜 3 限
実務経験あり
演習（演技）

田中 壮太郎

〔履修条件〕

積極的に取り組むこと。

〔授業の概要〕

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築をすることが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

〔授業の到達目標〕

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業概要、進行の説明
※ 授業内容はその進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。
- 第 2 回 前期シーンワークの作品発表、作品についての話し合い
- 第 3 回 本読み①
話し合い
- 第 4 回 本読み②
話し合い
- 第 5 回 生徒自身による実習場面の選択および相手役の決定、読み合わせ①
- 第 6 回 読み合わせ②
- 第 7 回 立ち稽古①
空間の把握
- 第 8 回 立ち稽古②
台詞の目的化
- 第 9 回 立ち稽古③
台詞の目的化
- 第 10 回 立ち稽古④
台詞を自分の言葉にする
- 第 11 回 立ち稽古⑤
台詞を自分の言葉にする
- 第 12 回 立ち稽古⑥
台詞を身体から離す
- 第 13 回 立ち稽古⑦
台詞を身体から離す
- 第 14 回 立ち稽古⑧

形にする

第 15 回 授業内発表

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

授業内のコミュニケーションによる。

〔授業時間外の学習〕

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。

これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

必要に応じて授業内で配布する。

〔成績評価〕

①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。

S ①～⑤で90%以上を獲得した者

A ①～⑤で80%以上を獲得した者

B ①～⑤で60%以上を獲得した者

C ①～⑤で50%以上を獲得した者

D ①～⑤で50%未満だった者

〔科目ナンバリング〕

THE1232TA

〔学位授与方針との関係〕

②、④

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

演技研究C（現代劇）(2) 1年次

専攻科 > 演劇専攻
1年生
1単位 後期
月曜3限
実務経験あり
演習（演技）

田中 壮太郎

〔履修条件〕

積極的に取り組むこと。

〔授業の概要〕

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築することが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

〔授業の到達目標〕

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

〔授業計画〕

- 第1回 後期シーンワークの作品発表、ウォーミングアップ
※ 授業内容はその進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。
- 第2回 生徒自身による実習場面の選択および相手役の決定、読み合わせ
- 第3回 読み合わせ①
- 第4回 読み合わせ②
- 第5回 立ち稽古①
空間の把握
- 第6回 立ち稽古②
コミュニケーション
- 第7回 立ち稽古③
行動としての台詞
- 第8回 立ち稽古④
相手役を動かす
- 第9回 立ち稽古⑤
役にとって、より負荷の大きい状況を選択していくということ
- 第10回 立ち稽古⑥
形にしてゆく
ブロッキング
- 第11回 立ち稽古⑦
通し稽古
- 第12回 立ち稽古⑧
通し稽古
- 第13回 立ち稽古⑨

通し稽古

第14回 後期発表

第15回 まとめ

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

授業内のコミュニケーションによる。

〔授業時間外の学習〕

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

必要に応じて授業内で配布する。

〔成績評価〕

①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。

S ①～⑤で90%以上を獲得した者

A ①～⑤で80%以上を獲得した者

B ①～⑤で60%以上を獲得した者

C ①～⑤で50%以上を獲得した者

D ①～⑤で50%未満だった者

〔科目ナンバリング〕

THE2232TA

〔学位授与方針との関係〕

②、④

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

演技研究C（現代劇）(1) 2 年次

専攻科 > 演劇専攻
2 年生
1 単位 前期
月曜 4 限
実務経験あり
演習（演技）

田中 壮太郎

〔履修条件〕

積極的に取り組むこと。

〔授業の概要〕

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築をすることが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

〔授業の到達目標〕

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業概要、進行の説明
※ 授業内容はその進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。
- 第 2 回 前期シーンワークの作品発表、作品についての話し合い
- 第 3 回 本読み①
話し合い
- 第 4 回 本読み②
話し合い
- 第 5 回 生徒自身による実習場面の選択および相手役の決定、読み合わせ①
- 第 6 回 読み合わせ②
- 第 7 回 立ち稽古①
空間の把握
- 第 8 回 立ち稽古②
台詞の目的化
- 第 9 回 立ち稽古③
台詞の目的化
- 第 10 回 立ち稽古④
台詞を自分の言葉にする
- 第 11 回 立ち稽古⑤
台詞を自分の言葉にする
- 第 12 回 立ち稽古⑥
台詞を身体から離す
- 第 13 回 立ち稽古⑦
台詞を身体から離す
- 第 14 回 立ち稽古⑧

形にする

第 15 回 授業内発表

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

授業内のコミュニケーションによる。

〔授業時間外の学習〕

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。

これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

必要に応じて授業内で配布する。

〔成績評価〕

①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。

S ①～⑤で90%以上を獲得した者

A ①～⑤で80%以上を獲得した者

B ①～⑤で60%以上を獲得した者

C ①～⑤で50%以上を獲得した者

D ①～⑤で50%未満だった者

〔科目ナンバリング〕

THE3232TA

〔学位授与方針との関係〕

②、④

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

演技研究C（現代劇）(2) 2年次

専攻科 > 演劇専攻
2年生
1単位 後期
月曜4限
実務経験あり
演習（演技）

田中 壮太郎

〔履修条件〕

積極的に取り組むこと。

〔授業の概要〕

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現はできない。観客の前においても再現ではなく再構築することが重要であると理解する。役ではなく「自分」を通してそれらを行う感覚を培う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

〔授業の到達目標〕

シーンワークを通して、実際の舞台や映像の現場で共通して求められる演技力を獲得できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 後期シーンワークの作品発表、ウォーミングアップ
※ 授業内容はその進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。
- 第 2 回 生徒自身による実習場面の選択および相手役の設定、読み合わせ
- 第 3 回 読み合わせ①
- 第 4 回 読み合わせ②
- 第 5 回 立ち稽古①
空間の把握
- 第 6 回 立ち稽古②
コミュニケーション
- 第 7 回 立ち稽古③
行動としての台詞
- 第 8 回 立ち稽古④
相手役を動かす
- 第 9 回 立ち稽古⑤
役にとって、より負荷の大きい状況を選択していくということ
- 第 10 回 立ち稽古⑥
形にしてゆく
ブロッキング
- 第 11 回 立ち稽古⑦
通し稽古
- 第 12 回 立ち稽古⑧
通し稽古
- 第 13 回 立ち稽古⑨

通し稽古

第 14 回 後期発表

第 15 回 まとめ

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

授業内のコミュニケーションによる。

〔授業時間外の学習〕

作品に対する理解のためのリサーチ。台詞が身体から離れる感覚を得られるまで入れる作業。これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

必要に応じて授業内で配布する。

〔成績評価〕

①授業への取り組み10%②障壁や課題に対する姿勢10%③センス10%④授業期間中の成長および変化20%⑤課題に対する成果50%を総合的に評価する。

S ①～⑤で90%以上を獲得した者

A ①～⑤で80%以上を獲得した者

B ①～⑤で60%以上を獲得した者

C ①～⑤で50%以上を獲得した者

D ①～⑤で50%未満だった者

〔科目ナンバリング〕

THE4232TA

〔学位授与方針との関係〕

②、④

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

演劇特別研究(1)①②

専攻科 > 演劇専攻
1年生 2年生
1単位 前期
土曜1限 土曜2限
実務経験あり
演習(演技)

眞鍋 卓嗣

〔履修条件〕

授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
稽古着・運動靴を必ず着用すること。
授業時間内は必ず時計・アクセサリ等を外すこと。
遅刻・欠席の場合は理由書を作成し、必ず直接提出すること。

〔授業の概要〕

演技基礎を他者との交流の視点から学ぶ。様々なトレーニングを施し、それがどのように実演技に結びついているかを、戯曲の一場面を使って検証する。

〔授業の到達目標〕

- ・専門俳優・表現者に必要な他者との交流の本質を探求し、向上することができる。
- ・他者との交流の重要性を知ることで、集団における協働性を向上することができる。
- ・戯曲の解釈と登場人物の役割を学んだ上で、他者との交流をどのように演技に生かすかを学び、実際に実演することができる。

〔授業計画〕

- 第1回 トレーニング
交流①
- 第2回 トレーニング
交流②
- 第3回 トレーニング
交流③
- 第4回 トレーニング
与えられた状況の中の自分①
- 第5回 トレーニング
与えられた状況の中の自分②
- 第6回 トレーニング
与えられた状況の中の自分③
- 第7回 戯曲読解
- 第8回 役へのアプローチの仕方、読み合わせ
- 第9回 読み合わせ
- 第10回 セリフの覚え方
- 第11回 実演①
- 第12回 実演②
- 第13回 実演③
- 第14回 実演④
- 第15回 前期の総括、ディスカッション

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

〔授業時間外の学習〕

- ・授業内容をノートに書き、疑問点や理解したこと等をまとめること。
 - ・与えられた宿題をやってくること。
 - ・実演する場合の道具や衣装等を用意すること。
- これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

教科書：授業時に配布（戯曲の一場面）

〔成績評価〕

授業の取り組み50%、課題の成果30%、レポートの内容20%にて、総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題の成果が特によく見られ、授業への取り組みが的確かつ秀でた者）

A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題の成果がよく見られ、授業への取り組みが的確だった者）

B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解や課題の成果が良好であった者、または取り組みが的確だった者）

C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解や課題の成果が不十分だった者、または取り組みが不十分だった者）

D 総合点が50点未満の者（授業内容を理解しなかった者、取り組みに問題があった者）

〔科目ナンバリング〕

THE1234TA

〔学位授与方針との関係〕

①、④

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

演劇特別研究(2)①②

専攻科 > 演劇専攻
1年生 2年生
1単位 後期
土曜1限 土曜2限
実務経験あり
演習(演技)

眞鍋 卓嗣

〔履修条件〕

授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
稽古着・運動靴を必ず着用すること。
授業時間内は必ず時計・アクセサリ等を外すこと。
遅刻・欠席の場合は理由書を作成し、必ず直接提出すること。

〔授業の概要〕

他者との交流の視点から演技基礎を学ぶ。それがどのように実演技に結びついているかを、戯曲の一場面を使って検証する。前期で学んだことを生かし、より実践的な内容とする。

〔授業の到達目標〕

- ・専門俳優・表現者に必要な他者との交流の本質を探求し、向上することができる。
- ・他者との交流の重要性を知ることで、集団における協働性の向上をすることができる。
- ・戯曲の解釈と登場人物の役割を学んだ上で、他者との交流をどのように演技に生かすかを学び、実際に実演することができる。
- ・プロの現場で行われているアプローチの仕方を学び、専門俳優・表現者として向上することができる。

〔授業計画〕

- 第1回 戯曲読解・読み合せ①
- 第2回 戯曲読解・読み合せ②
- 第3回 戯曲読解・読み合せ③
- 第4回 戯曲読解・読み合せ④
- 第5回 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ①
- 第6回 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ②
- 第7回 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ③
- 第8回 立ち稽古①
- 第9回 立ち稽古②
- 第10回 立ち稽古③
- 第11回 立ち稽古④
- 第12回 立ち稽古⑤
- 第13回 発表①
- 第14回 発表②
- 第15回 後期の総括、ディスカッション

〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕

発表の後に、振り返りとして総評を行う。

〔授業時間外の学習〕

- ・授業内容をノートに書き、疑問点や理解したこと等をまとめること。
- ・与えられた宿題をやってくること。

- ・実演する場合の道具や衣装等を用意すること。
- これらの学修に30時間以上を要する。

〔教科書・参考書等〕

教科書：授業時に配布（戯曲の一場面）

〔成績評価〕

授業の取り組み50%、課題の成果30%、レポートの内容20%にて、総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題の成果が特によく見られ、授業への取り組みが的確かつ秀でた者）

A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題の成果がよく見られ、授業への取り組みが的確だった者）

B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解や課題の成果が良好であった者、または取り組みが的確だった者）

C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解や課題の成果が不十分だった者、または取り組みが不十分だった者）

D 総合点が50点未満の者（授業内容を理解しなかった者、取り組みに問題があった者）

〔科目ナンバリング〕

THE2234TA

〔学位授与方針との関係〕

①、④

〔他専攻〕

—

〔キャップ対象外〕

—

舞踊B (コンテンポラリー)

専攻科 > 演劇専攻
1年生 2年生
1単位 前期
水曜2限
実務経験あり
実技

勝倉 寧子

〔履修条件〕

専攻科1・2年に置かれる選択科目。

経験の有無に関わらずコンテンポラリー・ダンスに興味があり、身体表現の習得に意欲的であること。

〔授業の概要〕

同時代のダンスという意味のコンテンポラリー・ダンスは、バレエにはない動きで表現の幅を大きく広げたモダンダンスよりもさらに新しい、最先端に行くダンスである。スキルフルで洗練され、アクロバティックで重力を利用した美しい脱力が特徴的。舞台芸術の中でも心とからだの密接な関係を深く実感できる、実に魅力的な身体表現であるコンテンポラリー・ダンスの中でも、バレエ・モダン・ジャズ・シアター・舞踏等あらゆるダンスを理解した上に成り立つ技法は、演劇においても質の高い身体表現を可能にするために大いに有効である。

この授業では、まずコンテンポラリー・ダンスのテクニカルトレーニングを積むこととからだを意志通りにコントロールできる能力を養う。応用ではテーマごとの実践を通して確かな技能、実践に役立つ表現力を身につけていく。更に、昨年度同様音楽学部との共同制作を実施する予定である。

〔授業の到達目標〕

- ・コンテンポラリー・ダンスの理解を深め、その技術を習得できる。
- ・プロの俳優として通用するからだをつくることができる。
- ・演じる上で、身体を使った感情表現をスムーズに行うことができる。
- ・プロの演出家、振付家、音楽家の要求に対応し得る基礎技術、応用力を身につけることができる。
- ・自作自演を可能にする創作力・演出力を身につけることができる。
- ・全プログラムを修了することで、協調性・距離感・空間認知能力・プランニング力を高めることができる。

〔授業計画〕

- 第1回 ストレッチ&リリース
- ・スウィング&リリーステクニック
 - ・呼吸法
 - ・筋力強化(インナー、アウター、体幹)
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。
- 第2回 アライメント、重力のコントロール
- ・姿勢の矯正、正確なポジショニング
 - ・フォール&リバウンド、リカバリー、サスペンション

- 第3回 基礎テクニック1、2の理解度と動きのチェック、動きを伴う重心移動
- ・動きのリーダー
 - ・フロアーワーク
- 第4回 テクニック応用...ダイナミックな3次元的空間使いの実践
- ・ステップバリエーション
 - ・フロアー+ジャンプ&ターン
- 第5回 音楽学部との共同制作①
- ・音楽学部生との顔合わせ
 - ・前年度コラボ授業映像試写、実技試験作品発表
- 第6回 フレーズを踊る①
- 舞踊身体表現の実践...まとまった長さの振付を覚える
- 第7回 フレーズを踊る②
- ・感情を伴う表現...音楽、シチュエーション設定による実践
- 第8回 フレーズを踊る③
- ・距離感(音楽と感情、空間認知)
 - ・協調性(他者との関わり)
- 第9回 小道具を使ったダンス...プロップダンスの実践
- ・プロの作品視聴
 - ・踊りのパートナーとしての小道具活用法
- 第10回 プロップダンスによるパフォーマンスの実践
- ・グループごとに発表
- 第11回 インプロビゼーション①
- ・即興力...新しい動きの生み出し方、手掛かりとなる手法
- 第12回 インプロビゼーション②
- ・デットスペース...他者の作り出す空間を利用したインプロ
- 第13回 音楽学部との共同制作②(インプロビゼーション③)
- ・音楽学部生提供楽曲によるインプロビゼーションの実践
- 第14回 作品創作の手引き
- ・ダンス・スコアの役割
 - ・演出、構成
 - ・グループ単位での実践
- 第15回 授業の振り返り、実技試験当日の説明
- ・創作進捗状況
 - ・提出用紙配布
 - ・抽選による順番決め等
- 〔学生に対する教員からのフィードバック方法〕
- 作品発表の後に全員を集め個々の作品ごとに講評、最後に総評を行う。
- 〔授業時間外の学習〕
- 毎回授業で学んだテクニックは、次回の授業までに必ず復習しておくこと。
- 予習課題には積極的に取り組み、次の授業までに準備しておくこと。
- 日頃から創作(実技試験)の素材となり得る音楽やテーマ

の情報収集に努めること。

舞踊動画等を積極的に観ること。

これらの学修に30時間以上を要する。

【教科書・参考書等】

稽古着はシンプルで動きやすいものが望ましい。

基本的にシューズを履かずに行う。素足をカバーするための布製の履物や靴下等は着用可。

【成績評価】

授業の取り組み50%、課題に対する評価50%とし、総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に理解し、それらを的確に使い優れた身体表現を実現することができる）

A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項を十分に理解し、それらを明確に表現し応用できる身体能力を持っている）

B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項をほぼ理解し、それらを表現し応用できる身体能力を持っている）

C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項をある程度理解し、身体表現能力に向上が見られる）

D 総合点が50点未満の者（基本的な諸事項の理解に欠け、身体表現能力に向上が見られない）

【科目ナンバリング】

DNC1340TA

【学位授与方針との関係】

②、⑤

【他専攻】

—

【キャップ対象外】

—